



# 別寒辺牛



2024年7月発行  
NO.45

## アイニンカップ岬周辺のオオアマモ

海草の一種である『オオアマモ』は、日本近海でしか見られない貴重なアマモの仲間で、絶滅危惧種にも指定されています。

通常は水深が深い海域で見られるオオアマモが、アイニンカップ岬周辺の海岸では世界で唯一、潮間帯（満潮時は海中、干潮時は陸地になる浅瀬）に生育しており、重要な生態系を形成しています。

釧路市から厚岸町にかけての海岸線は地すべりや崖崩れが起きやすい地域となっており、アイニンカップ岬周辺では令和3年に大規模な崖崩れが確認されています。この崖崩れ以前の令和元年と直後の令和3年、そして少し時間が経過した令和5年にアマモ場の調査を行い、崖崩れがオオアマモに与えた影響を評価しました。



▲アイニンカップ岬周辺のオオアマモ



▲アイニンカップ岬周辺の崖崩れ現場

## アマモ場の分布

令和元年から令和3年にかけてアイニンカップ岬周辺の上空からドローンでアマモ場を撮影し、アマモ場の分布の変化を比較しました。

崖から離れたアマモ場は崖崩れの影響を受けておらず、分布は変化していませんでした。崖付近では、令和3年の崖崩れにより土砂が積もった浅瀬の方向にアマモ場が拡大しましたが、令和5年には崖崩れの進行により、崖付近のアマモ場は大半が消失していました。このように、崖崩れの影響を受ける場所ではアマモ場は安定して維持されないことが分かりました。

## 崖崩れとアマモの状態

令和3年と令和5年のそれぞれで、崖崩れが起きた場所と崖から離れた場所のアマモの状態を比較しました。その結果、崖崩れが起きた場所ではアマモの株の密度は低下し成長が遅くなることが分かりました。

また、令和3年には繁殖可能な株の割合が、崖崩れが起きた場所では低くなっていましたが、令和5年には2つの場所で差が見られなくなっていました。崖崩れによってアマモが受ける影響は、長期的なものの一時的なものがあるといえます。

## 崖崩れ後に増えたアマモはどこ由来なのか

崖崩れ跡地に進出したアマモはどこからきたものなのかを特定するために、アイニンカップ岬周辺で採取したアマモと道内各地で採取されたアマモの遺伝子を比較しました。

崖崩れ跡地のアマモは道南や道北のものとは遺伝子が異なり、アイニンカップ岬周辺のアマモの一部が分布を広げてきたものであることが分かりました。また、崖崩れ跡地のアマモは遺伝子の多様性が低いことも示されました。

## まとめ

今回は、崖崩れという自然なかく乱がアマモ場に与える短期的・長期的な影響について理解を深めることができました。また、今後気候変動により土砂災害の増加が見込まれる中で、この研究が崖崩れによる貴重なアマモ場への影響の予測や保全策の検討、他の地域での影響評価の重要な参考資料になることが期待されます。

国立科学博物館の伊藤美菜子氏らによる『厚岸湾アイニンカップのオオアマモに対する崖崩れの影響評価』より  
報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページで見ることができます

アイニンカップ岬周辺のオオアマモに対する崖崩れの影響評価  
厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励金の研究事例を紹介します

問い合わせ／水鳥観察館 ☎ 52-5988